



豊橋市立岩田小学校

〒440-0832
豊橋市中岩田四丁目1の2

TEL 61-2607
FAX 65-1207
e-mail : iwata-e@toyohashi.ed.jp
HP:http://www.iwata-e.toyohashi.ed.jp




1年 6年生ありがとう大作戦



2年 生活科「野菜を育てよう」



3年 出前講座「ちくわ教室」

～1年間の思い出



4年 わくわく体験活動



5年 社会科工場見学



6年 修学旅行(京都・奈良)

ことばで伝えた子どもたちの成長

校長 石川 武文

今年度、「自分のことばで伝える」をキャッチフレーズとして、日々の教育活動をすすめてきました。その中で、今年一年間で私が出会った「うれいな」「がんばっているな」「成長したな」と感じる子どもたちの姿を紹介します。

一つ目は保健委員会の「けがグッバイコーナー」です。学校生活の中で予測される『けが』の起こる原因や予防策等について、委員会活動の中で意見を出し合いまとめたものを、給食時の放送で全校に呼びかけてくれました。低学年の子どもたちにもわかるように、毎回ことばを選びながら伝えてくれています。

二つ目はあいさつです。二学期に入ってから、登校中の児童から「おはようございます」とあいさつをしてもらえてうれしかったと、地域のかたから連絡をいただきました。

三つ目は学習のまとめを地域のかたに発信したことです。生活科の学習で学んだことを、新聞の記事にまとめ、お世話になった校区自治会長さんをお願いして市民館に掲示してもらいました。単元の学習が終わった後も、自分たちの公園をきれいにしたかと思いをもち続け、自分からすすんで公園の清掃を手伝う子どもがいるそうです。

これからも、自分の考えや感謝の気持ちを自分のことばで伝えることを育てていきたいと考えています。来年度も引き続き、本校の教育活動に、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



【一年】だいすき♡いっぱい

「かん字がかけるようになったよ!」
 「けいさんカード、ぜんぶできた!」
 「まえとび、十かいとべた!」
 「タブレットでポイントもらったよ!」
 「けんぱんハーマモニカがじょうずになった!」
 「きらいなものもたべて、おかわりできた!」
 「とびばこで三だんがとべた!」
 「こまが、まわった!」
 「さかあがりできた!」
 「Oがーに、10に、100に:」
 毎日急成長。新しいことにたくさんチャレンジし、成長し続けた一年になりました。子どもたちにとって、「楽しい」「だいすき」「応援」は大事な原動力です。友達ががんばる姿、大好きな六年生の「すごいね、上手!」の励ましなど、たくさんの人から影響を受けたり、支えられたりしながら、「できた!」を増やすことができました。

学校生活の「だいすき」をいっぱい見つけた一年間。二年生になっても、「だいすき」を見つけて、さらに輝く姿を期待しています。



【二年】きらり輝く校区と子どもたち

岩田校区にはたくさんの公園があります。二年生は、生活科で公園探検に取り組みました。公園のすごいところ、すてきなところを「きらり」と名付けて、きらり見つけに取り組みました。ふだんから遊んでいる公園も、改めて観察してみると、さまざまな発見がありました。

公園の木々には、防風や防火、日差し除け、生き物たちのすみかなど、たくさんの役割があること。自分たちが楽しく遊べるように、遊具を点検・修理してくれる人たちがいること。そして、すすんで公園をきれいにしてくれている、たくさんの方の地域の人たちがいること。見学やインタビューを通して、どんな公園のきらりを見つけたか。学習を進めていくと、自分たちも公園のために何かしたいという声も、子どもたちから出てきました。そこで、二年生全員で万口公園の清掃に取り組みしました。

この学びを通して、校区の公園や人々にさらに愛着を感じ、岩田校区がますます好きになったようです。



【三年】もっと知りたい!岩田の町

校区探検、スーパーマーケットの見学、学校の周りの景観や農業についての出前授業など、岩田校区のさまざまな「人」「もの」「こと」について学習しました。初めは、気づいたことを書いたり発表したりする事で精一杯の子も多かったですが、学習を進めていくうちに、気づいたことから新たな疑問を見つたり、わかったことを自分なりに工夫してまとめたりすることができるようになってきました。

特に市電の学習については興味をもち、意欲的に考えたり調べたりしました。豊橋鉄道のかたの話や聞いたり、赤岩口車庫へ見学に行ったりする中で、一人一人が自分の調べたいことを見つけてきました。「もっと知りたい!」という思いを大切に学習に取り組むことで、一年間を通して、課題を見つけて、自分の考えをまとめ、伝える力を高めました。

工夫してまとめた市電の新聞は、「私とみてつ小学生新聞コンクール」で優秀学校賞を受賞することができ、学年全員で喜びを分かち合いました。



【山びこ】「教える」「いいね」

山びこ級は、全学年が異学年で構成されています。学年も特技もさまざまな子どもたち。自分の得意な分野では、すすんで友達に手を差し伸べる姿が多く見られるようになりました。

四月、入学したての一年生は、席に着いて過ごすことも学習の一つです。近くで一生懸命学習に励む高学年の姿を見て、だんだんできるようなりました。今では、四十五分間座って学習できる立派な小学生です。いつも助けてくれる六年生が大好き。六年生が理科の授業で作った自動車の走らせ方を教えてもらって仲よく遊ぶ姿が見られます。

タブレット学習が多く取り入れられるようになり、タブレットの扱いが得意な子は、困っている友達を自然とサポートするようになりました。給食や清掃活動では、牛乳パックの開き方を教える姿、重いバケツを一緒に持っている姿、雑巾を絞ることが苦手な子を手伝っている姿など、高学年が低学年の様子を気にかけて必要に応じて手を差し伸べます。

「教えて」「いいよ」が自然と飛び交う素敵な仲間になりました。



学校教育目標

みんなで
明るく
たくましく



令和7年度 岩田小学校のあゆみ

「1年の学びと成長」

【国際】日本語で話せるようになったよ!

国際教室の子どもたちは、それぞれ日本語の力を伸ばしました。アミーゴ教室の子どもたちは、日本の学校生活がわかるようになりました。日本語を全く話せなかった一年生は、簡単な日常会話ができるようになりました。ひらがなが読めるようになりました。二年生は、算数の授業のはじめに「九九のうた」を動画とともに歌って、九九が大好きになりました。

校長先生の前で九九を唱える検定にも合格しました。三年生は計算が速くできるようになりました。四年生は自分の考えを日本語の文章で表すことができるようになりました。五年生は漢字をたくさん覚えました。六年生は算数の文章問題がわかるようになってきました。



母学級で、国語や算数の授業に取り組みようになった子どもたちは、自分の日本語に自信をもって話していました。

子どもたちが、生活の中で日本語を使う場面をたくさん見ることができました。

【四年】学年のことを考えられる姿に

岩田校区や、岩田小学校は「多文化共生」を学習していくうえで、よい環境がそろっています。四年生のオルポジ(総合)の学習では、ごみステーションの外国語表示や、岩田小にある外国語表示をきっかけに、外国籍の人たちとの共生について考えました。岩田団地の自治会長さんを学校に招いて話を聞いたり、ブラジルやフィリピンの言葉や文化について調べたりする中で気づいたことを発表・共有しました。相手の国の言葉であいさつしたり、外国の遊びで実際に遊んでみると、お互いの文化への理解を深めることができました。オルポジを通して学習したことを生かして、これからも外国籍の人や友達との関係をつくってほしいと思います。

そして、三学期からは、進級や学級目標の達成に向け、学級委員を中心に課題を話し合い、学年のレベルアップを目指しています。

自分の行動を振り返ったり、学級や学年全体のことを考えて行動したりしながら、締めくくりに向けて一生懸命にがんばっています。



【五年】絆パワー

仲間とともに最高の思い出を

これは、十月に行った野外教育活動のテーマです。「自分たちで考えてすすんで行動する」、「友達と助け合い協力する」、「係の仕事や役割に責任をもつ」という三つの目標と合わせて、学級委員を中心に学年で話し合っていました。その他の班や係決め、部屋割りなども自分たちで考えるようにし、「仲間とともに最高の思い出にしたい」という気持ちを少しずつ高めていきました。活動当日には、班長の指示で時計やしおりを見ながら、自分たちで行動することができました。飯盒炊飯によるカレーライス作りや奉仕活動では、自分の担当だけでなく、友達と協力して調理や作業を進めていました。また、キャンプファイヤーや砂浜レクでは、係の子たちの企画・運営により、大いに盛り上がりました。

野外教育活動を通して、自分たちで決めたテーマや目標に迫り、子どもたちの主体性や協調性、責任感を育てることができました。そしてなにより、数か月後に迎える最高学年への意識を高めることができてきました。



【六年】最高学年としての一年

岩田小学校の最高学年として、一年間を歩んできました。この一年の中で、「下級生に対する接し方」を学び、「自分たちで創り上げる力」を培いました。入学式や一年生を迎える会では、新たに仲間となる一年生のサポートをする姿が多く見られました。その後、清掃活動や休み時間の遊びなど、一年生と交流する時間を設けました。

最初はぎこちなかったものの、時間が経つと一年生からハイタッチをねだられたり、一年生から笑顔で「ありがとう」と言われたりしていました。六年生も笑顔でハイタッチをしたり、手を振ったりして一年生との交流を楽しんでいる様子が見られました。最高学年として、「下級生に対する接し方」を学ぶことができました。



学期ごとの学年レクや卒業プロジェクトでは、子どもたちが企画・運営を行いました。学年レクでは、「六年祭」と名づけ、どんどこまつりのようなブースを作り、子どもたちが運営をしました。手作りのブースを運営する子ども、ブースで遊ぶ子ども笑顔で楽しむことができていました。さまざまな活動を通じて、「自分たちで創り上げる力」を培うことができました。